

中国での医療による大量虐殺に踏み込む

肝移植・腎移植産業における 中国本土712軒の病院の概観

(神戸 IAFOR 宗教・哲学・倫理国際学会での
ポスタープレゼンテーションの邦訳)

中国での臓器収奪の経緯

1960年代

最初の臓器移植が行われる。

1970年代

臨床での移植手術が中国で始まる。

1980年代

国家公布の規則のもとで、処刑された囚人が臓器源となる。

1990年代

ウイグルの政治犯が臓器源の対象となり始める。

1999年

法輪功の迫害が始まる。

2000年

移植件数、移植病院数が累増する。

2006年

独立調査が「法輪功の修煉者から強制的な臓器収奪が行われている」と結論付ける。

2007年

中国は死刑宣告された囚人からの臓器収奪を停止すると約束。
（「良心の受刑者」とは異なる）

中国衛生省は164の病院に、臓器移植の継続を認める。

2014年

中国の元衛生省次官・黄潔夫が、死刑宣告された囚人も統合臓器分配システムの一部に組み込まれ、自発的な市民ドナーとみなされると発表。

2015年

中国は処刑された囚人からの臓器を移植に用いることを停止したと発表。

2016年

6月22日、三人の調査者が共同で発表した680ページの独立調査に基づく報告書が発表される。中国での臓器移植がオンデマンドで行なわれること、その件数規模、前回の推定より遥かに多い年間移植件数、今も続いている事実を伝える。

1. 背景

2006年以降、独立した調査者デービッド・マタス、デービッド・キルガーが、中国でドナー制度なしで急成長する臓器移植産業の調査に従事してきた。その結果、中国政府が公表する「死刑を宣告された囚人」のみを臓器源とするのではなく「良心の受刑者」（主に法輪功修煉者、ウイグル人、チベット人、中国家庭教会の信者を含む）が移植用臓器のために殺害されているという遺憾な結論が導き出されている。

2006年の報告書の中では中国が公式に発表する移植件数（約1万件）を額面通りに受け止め、これらの件数に対する供給源の追跡を試みた。しかし、中国政府による移植件数の統計値は必ずしも信頼できるものではなく、また中国メディアが伝えている移植産業の急成長と合致しない。独立調査により中国での移植件数を確立する必要があった。

2016年6月、中国における臓器移植の濫用に関するこれまでの報告書を更新する『最新報告書』を、調査者イーサン・ガットマンと共同で発表した。同報告書では移植が行われている個々の病院のデータを収集し算出した移植件数に主眼が置かれた。報告書の主要点に目を向けてもらうためにこのポスターは用意されたが、680ページ（脚注2,400項目）の『最新報告書』が提示する込み入った内容を要約・代替するものではない。（jp.endorganpillaging.orgより原文ダウンロード可）

2. 算出方法

同報告書は肝移植と腎移植に主眼を置いた。712の病院がこれらの移植を行っていることが実証されている。2007年に中国衛生省が認可した146の病院と、無認可で運営している566の移植センターが含まれている。調査の過程で、それぞれの病院に関する医療ジャーナル、メディア報道、政府の公式発表、アーカイブされたウェブサイト、政策、国家戦略計画や資金を裏付けに個々の病院を観測していった。中国の臓器移植の実態をより完璧に描き出す上で、これらの情報源だけでは分からない部分を告発者の証言が埋め合わせてくれた。

注）秘匿と虚偽の状況下で、中国政府は特定の病院のウェブサイトに発表した情報を次々と削除しているため、年間移植件数の明確な数値またはそれに近い数値の算出は不可能である。しかし、常識的な計算方法を構築し、推定に透明性を持たせて、低く見積もった推定値を割り出すことは可能である。

臓器移植件数＝病院数×病床数×病床利用率

これらの病院の移植件数を直接把握することはできないが、各病院の収容人数、移植件数の増加記録、病床数、利用率に基づき移植件数の範囲を推定することはできる。さらに、中国政府が規定する移植病院としての最低限の病床数は、中国全域における移植病院の規模確定に有益な情報となった。

事実の照合

様々な種類の病院の資料と移植外科医の数に基づく単純な算出に、免疫抑制剤の国内での市場規模も加え、推定件数の照合をはかった。

3. 結果

低く見積る3種類の計算方法から同様の数値が得られた。

i) 政府が規定する最低基準に基づく推定値

年9万件の腎・肝移植、15年間で140万件の移植が行われている。入院期間を1ヶ月、中国衛生省が要請する移植病院の最低病床数を基準とすると、146の移植手術認定病院では1,039,500件、566の非認定病院では339,850件の移植が行われる概算となり、合計で1,379,350件（約140万件）が算出された。

ii) 移植手術別の平均値に基づく推定値

年間6～10万件の腎・肝移植、つまり15年間でおよそ90万～150万件の移植が行われている。下記のカテゴリー別の病院での低く見積もった週の平均値を基に、移植件数の全国での推定範囲の最低値を割り出した。

民間・軍病院の移植センター（週7件）
指定された移植センター（週3.3件）
大規模（週2件）・中規模（週1件）の非認定病院

推定範囲の最高値は、認定病院での低く見積もった移植件数を倍増して算出した。

iii) 国内の医薬市場に基づく移植患者の推定値

年間6万6千600人、つまり15年間で約100万人。2006年以前の5年間の免疫抑制剤市場は100億人民元で、平均生存年数5年を考慮すると、レシピエントの総計は33万人と算出される。2000年から2015年の15年間にあてはめると、2015年までのレシピエント数は $66,600 \times 15 = 999,000$ である。この数字には、市場成長率や国外から中国に渡航して移植手術をした後自国で術後のケアを受ける患者の数は含まれていない。

4. 主な調査結果：底のつきない臓器

・待ち時間の短さ

2009年、米国での腎移植の待ち時間の中央値は3.6年。英国では2002～2006年の成人の腎臓に対する待ち時間の中央値は2.7年、2005～2009年にかけての中央値は3.3年。中国では2006年3月（法輪功からの臓器収奪が最初に国際的に報道された時期）以前は、かなりの中国の病院のウェブサイトに2週間以内で肝臓と腎臓のドナーを見つけることを保証していた。ドナーが待機していることを主張する病院もあった。

・緊急移植

中国での医療関連出版物の多くに「緊急」肝移植の記事がみられる。患者が急性肝臓疾患で入院してから72時間以内にドナーが選定され肝臓が移植される手術である。中国の肝移植の年間登録報告によると、2006年の1年間で1,150件（つまり全ての肝移植の四分の一）が72時間以内にドナーを選定している。

・「ドナーがレシピエントを探す」

雲南省昆明腎臓病医院は、中国南西部の100指に入る私立病院で、腎・肝移植を専門とする。病床数およそ100床。10カ国・地域以上の患者が訪れている。オンライン上での患者の質問に対し病院側は「当臓器移植病院ではドナーが結合するレシピエントを探しています」と言及。「短時間で健康な腎臓を見つけ」「温・冷の虚血期間は最短」で「付着しない場合、成功するまで移植を続ける」ことを保証している。

・同じ患者のために移植を繰り返す

2006年、外科主任の王広策は、湖南中医薬大学第一附属医院で、腎臓の再移植に関する50件以上の事例を分析した研究を発表している。50件のうち46件は2度目、3件は3度目、1件は4度目の手術であった。

5. ケース・スタディー

・天津東方臓器移植センター

少なくとも500病床数。利用率131%と主張している。つまり、この病院だけで年間8,000件以上の腎・肝移植が可能である。ニューヨーク州で最多の移植件数を誇る病院での年間の肝移植件数142件（2014年）と比較されたい。

米国全域の年間の肝移植件数は、およそ6,000件である。

- ・人民解放軍臓器移植センター

人民解放軍臓器移植センター（309病院）は、1晩で12件の腎移植を遂行した記録がある。著名な外科医のプロフィールは下記の通り。

石炳毅（シー・ビンイー）：2011年までに少なくとも2,130件の腎移植、380件の肝移植、多くの心臓、肺、すい臓、小腸、多臓器移植を行った。

銭叶勇（チェン・イエヨン）主任：2013年までに2,000件の腎移植と多くの多臓器移植手術を行った。

蔡明（ツァイ・ミン）：1,000件の腎移植、100件の肝移植、また数百件の臓器摘出手術を行った。

同センターには、231人の医療スタッフと研究員がいる。病床数は、2010年316床、2012年393床、ウェブサイトでは330床としているが、現在は1,407床である。病床利用率は同規模の軍病院を超えると報告されている。

6. 犠牲者グループ

1970年代に遡る「良心の受刑者」が含まれる

- ・ウイグル人

中国北西部のチベットに近い地区である新疆ウイグル自治区に住むこのトルコ系の民族も1990年代にターゲットとされ始めた。

- ・法輪功

最大のターゲット・グループ。法輪功とは、古代中国の伝統に則り、真善忍の理念に沿って健康・自己の向上をはかる修煉方法。

1990年代末までに、中国政府は、7000万人以上が法輪功をしていると推定。江沢民・元中国共産党党首がこの人気と伝統的な価値観の復興を、自己統治への威嚇とし「金銭的に倒産させ、人望を失わせ、肉体的に破壊せよ」という暴力的な撲滅運動を開始した。

中国全域から数十万人の法輪功の学習者が北京の中央政府に陳情に行き、逮捕され拷問された。家族、友人、同僚を守るため、多くの者が身元を明かさず、国家に拘束される最大の匿名人口となる。さらに中国全域で学習者の一斉検挙が始まり、痕跡なく失踪するようになった。

死刑宣告の囚人の多くとは対照的に、法輪功に従事する者は、アルコール、タバコ、薬物を避けるため、一般の囚人より健康である。法輪功学習者だけ

が強制的に血液検査や臓器の検査を受けてきたという幅広い報告がある。

- ・チベット人&中国家庭教会

政治犯を構成する他のグループとして、チベット人および一部の中国家庭教会（中国国家が許さないキリスト教グループ）の教徒もターゲットにされているという事例証拠が存在する。

7. 結論

- ・中国での移植件数は中国政府が発表する年間1万件を遥かに上回る。最近の報告では6万~10万件と推定。高い数値の方に重きが置かれている。

- ・臓器提供件数はこれまで同様わずかであり、政府公式発表とは反対に、臓器収奪は停止されていない。移植産業はここ10年間、急速に成長を続けている。

- ・移植臓器のほとんどは無実の者を殺害して取得されている。
ターゲット・グループ：ウイグル、チベット、一部の中国家庭教会、大多数は法輪功

- ・中国での臓器収奪は、中国共産党、軍部、国家機関、健康保険制度、病院、移植専門医の全てによる共犯。

8. 勧告

政府機関に対して

- ・世界の政府間コミュニティーが、中国での臓器移植濫用に対して、特定の機関を中心とした独立調査を確立すべきである。

- ・過去・現在における「良心の受刑者」からの臓器収奪の事実調査を中国が完全に許さない限り、自国民を移植のために中国に行かせるべきではない。

医療関係に対して

- ・中国への移植ツーリズムの実態は患者のプライバシーを理由に保護されるものではない。公に監視されるべきである。

- ・世界の移植界は、中国の移植界が設定基準に達しない限り、連携・協力を避けるべきである

9. 関連資料

『最新報告書』 jp.endorganpillaging.org
『中国での移植手術と日本との関わり』 <http://bit.ly/2hHRPGY>

書籍

『中国臓器狩り』 アスペクト社（2006年の調査報告が基盤）
（デービッド・キルガー、デービッド・マタス共著 2009年）
『国家による臓器狩り』 自由社（11人のエッセイ集）
（デービッド・マタス、トルステン・トレイ共同編集 2012年）
『The Slaughter』 日本語版未刊（約120名の面接調査が基盤）
（イーサン・ガットマン著 2014年）

ドキュメンタリー

『人狩り』 Human Harvest（51分）日本語字幕付き上映可能
<http://www.humanharvestmovie.com/>
『知られざる事実』 Hard to Believe（56分）日本語字幕付き DVDあり
<http://www.hardtobelievemovie.com/japanese>
『Harvested Alive』（61分）英語版無料視聴可
<http://endorganpillaging.org/online-movies/>

関連団体

強制臓器摘出に反対する医師団
Doctors Against Forced Organ Harvesting
（2016年ノーベル平和賞候補団体）
<http://www.dafoh.org/> [国連への請願書/](#)
中国での臓器収奪停止 EOP国際ネットワーク
International Coalition to End Organ Pillaging in China
（2010年、2017年ノーベル平和賞候補調査者が創設）
jp.endorganpillaging.org/
移植ツーリズムを考える会（国内機関）
<http://www.stop-oh.org/>
関連リンクに「新唐人テレビ 臓器狩り関連ニュース」